

平成 2 5 年 度

芦別市公営企業会計決算審査意見書

市立芦別病院事業会計

芦別市水道事業会計

芦 別 市 監 査 委 員

目 次

第 1	審査の概要	1
(1)	審査の対象	1
(2)	審査の期間	1
(3)	審査の方法	1
第 2	審査の結果	1
(1)	各公営企業会計決算の審査対象書類の計数等	1
(2)	各公営企業会計決算の総括	1

< 市立芦別病院事業会計決算 >

1	事業の経営概況について	4
2	経営成績について	6
3	予算と決算について	8
4	財政状況について	11
5	総括について	14

< 芦別市水道事業会計決算 >

1	事業の経営概況について	16
2	経営成績について	18
3	予算と決算について	20
4	財政状況について	23
5	総括について	26

平成25年度芦別市公営企業会計決算審査意見

第1 審査の概要

1 審査の対象

市長から提出された次の公営企業決算に係る決算報告書、損益計算書、剰余金計算書、欠損金処理計算書、剰余金処分計算書、貸借対照表、証書類、収益費用明細書、固定資産明細書、企業債明細書、事業報告書等の書類（以下「審査対象書類」という。）を審査の対象とした。

- (1) 平成25年度市立芦別病院事業会計決算
- (2) 平成25年度芦別市水道事業会計決算

2 審査の期間

平成26年6月2日から同年7月7日まで

3 審査の方法

審査対象書類に記載されている計数が正確に表示されているか、また、収入及び支出が適正に執行されているかを主眼として審査した。

なお、審査に当たっては、事業の経営が企業の経済性を発揮するとともに、本来の目的である公共の福祉を増進するよう運営されているかに意を用いて計数の分析を行い、経営の実態等を考察した。

第2 審査の結果

1 各公営企業会計決算の審査対象書類の計数等

審査対象書類は、法令に規定された様式に従って調製されており、表示された計数は、関係帳票と照合の結果、正確であると認められた。

2 各公営企業会計決算の総括

各公営企業会計決算の概要及び意見は次のとおりである。

< 各公営企業用語解説 >

【当年度純利益】

経常収益に特別利益を加えた〔総収益〕から、経常費用に特別損失を加えた〔総費用〕を差し引いたもの。プラスの場合は純利益で、マイナスの場合は純損失。

【特別損益】

固定資産の売却による損益や料金時効による不納欠損など、突発的に発生する損益。

【累積欠損金】

今までの純損失(赤字)を積み上げた欠損金のこと。減価償却費などの現金支出を伴わない費用も含まれているため、直接、経営に必要な資金不足を表すものではない。

【当年度末内部留保金】(補てん財源)

減価償却費など現金支出を伴わない費用も含まれているため、会計内部に留保される資金が生じていることから、これらの資金を内部留保金という。

これらは主に建設改良費や企業債償還金の補てん財源として使用されるが、その残額を翌年度使用可能な額として、当年度末内部留保金と表すものである。

市立芦別病院事業会計

芦 別 市 水 道 事 業 会 計

＜市立芦別病院事業会計決算＞

1 事業の経営概況について

病院事業における本年度の業務予定及び実績は次表のとおりであり、前年度の実績に比較し年間取扱患者数は、入院で2,336人、外来で2,521人減少したため、総体では4,857人の減少となった。

また、建設改良事業としては、次世代型逆浸透圧法(RO)水処理装置(透析室)、血液脈波検査装置・薬用保冷庫(検査室)、両面XYSガステーブル、包丁・まな板殺菌庫(1階厨房)等購入のため、総額20,569千円の事業を実施した。

次に、経営収支において、収益では患者数が入院・外来共に減少したが、外来患者における外科患者数333名、循環器科患者数926名が増加となり、昨年に比べて28,244千円(4.8%)増の613,453千円となり、さらに、他会計補助金の増加もあり、総体では前年対比130,909千円(6.4%)増加し、2,172,612千円となった。

一方、費用においては、減価償却費及び資産減耗費、支払利息等が減少したため18,674千円(0.9%)減少し、2,165,791千円となり、当年度純利益6,821千円を計上することとなった。

この結果、当年度未処理欠損金は前年度に比べて0.2%減少し、3,246,439千円となり全額翌年度に繰越している。

当年度における経営成績は、次表のとおりである。

病 院 事 業 実 績 表

(単位：床・人・%)

項 目	区 分		予 定 量			実 績			実績率 B/A×100
			当 初	補 正	計 A	25年度 B	24年度 C	増 減 (B-C)	
病 床 数	一 般 療 養	一 般	140	△ 40	100	100	140	△ 40	100.0
		療 養	29	0	29	29	29	0	100.0
年 間 取 扱 患 者 数	入 院	一 般	30,295	△ 2,286	28,009	27,474	30,461	△ 2,987	98.1
		療 養	7,665	727	8,392	8,304	7,653	651	99.0
	外 来		77,736	△ 3,482	74,254	74,267	76,788	△ 2,521	100.0
	計		115,696	△ 5,041	110,655	110,045	114,902	△ 4,857	99.4
1 日 平 均 取 扱 患 者 数	入 院	一 般	83	△ 7	76	75	83	△ 8	98.7
		療 養	21	2	23	23	21	2	100.0
	外 来		316	△ 13	303	303	313	△ 10	100.0
	計		420	△ 18	402	401	417	△ 16	99.8

建設改良事業

(単位：千円・%)

区分 項目	予定量				実績			実績率 B/A×100
	当初	補正等	事業 繰越	計 A	25年度 B	24年度 C	増減 (B-C)	
医療機器等購入費	20,306	344	0	20,650	20,569	17,699	2,870	99.6
計	20,306	344	0	20,650	20,569	17,699	2,870	99.6

経営収支総括表

(単位：円・%)

科目	平成25年度	平成24年度	増減額	増減率
総収益	2,172,611,872	2,041,703,863	130,908,009	6.4
総費用	2,165,791,254	2,184,464,383	△ 18,673,129	△ 0.9
当年度純利益	6,820,618	△ 142,760,520	149,581,138	—
前年度繰越欠損金	3,253,259,606	3,110,499,086	142,760,520	4.6
当年度未処理欠損金	3,246,438,988	3,253,259,606	△ 6,820,618	△ 0.2

※ 平成24年度は当年度純損失のため、マイナス(△)表記としている。

入院及び外来の収益増減分析表

(単位：人・円)

区分	平成25年度			平成24年度			比較増減		
	取扱 患者数 A	1人当 り平均 収益額 B	収益額 C	取扱 患者数 D	1人当 り平均 収益額 E	収益額 F	取扱患者数 の増減によ る増減収額 (A-D)×(F/D) G	1人当たり平均 収益額の増減に よる増減収額 (C/A-F/D)×A H	計 (G+H) (C-F)
入院	35,778	29,319	1,048,968,286	38,114	29,395	1,120,362,494	△ 68,666,810	△ 2,727,398	△ 71,394,208
外来	74,267	8,260	613,452,740	76,788	7,621	585,208,981	△ 19,212,792	47,456,551	28,243,759
合計	110,045		1,662,421,026	114,902		1,705,571,475	△ 87,879,602	44,729,153	△ 43,150,449

前年度に比較し取扱患者数は、入院においては2,336人(6.1%)、外来においては2,521人(3.3%)ともに減少となっている。

また、1人当たりの平均収益額では、入院においては76円(0.3%)、減少し、外来においては639円の(8.4%)増加を示している。

2 経営成績について（税抜き）

科 目		区 分	平成25年度	平成24年度	増 減 額	増減率
① 総 収 益	ア 医 業 収 益	入 院 収 益	1,048,968,286	1,120,362,494	△ 71,394,208	△ 6.4
		外 来 収 益	613,452,740	585,208,981	28,243,759	4.8
		そ の 他 医 業 収 益	42,095,687	43,008,379	△ 912,692	△ 2.1
		他 会 計 負 担 金	89,541,000	133,744,000	△ 44,203,000	△ 33.1
		計	1,794,057,713	1,882,323,854	△ 88,266,141	△ 4.7
	イ 医 業 外 収 益	受 取 利 息 配 当 金	11,945	19,227	△ 7,282	△ 37.9
		他 会 計 負 担 金	45,057,000	39,447,000	5,610,000	14.2
		他 会 計 補 助 金	66,979,000	68,170,000	△ 1,191,000	△ 1.7
		補 助 金	3,621,600	3,544,600	77,000	2.2
		そ の 他 医 業 外 収 益	13,164,632	13,124,535	40,097	0.3
	計	128,834,177	124,305,362	4,528,815	3.6	
	ウ 特 別 利 益	過 年 度 損 益 修 正 益	2,476,982	204,220	2,272,762	1,112.9
		他 会 計 補 助 金	247,243,000	30,000,000	217,243,000	724.1
		固 定 資 産 売 却 益	0	4,870,427	△ 4,870,427	皆減
計		249,719,982	35,074,647	214,645,335	612.0	
a 収 益 合 計			2,172,611,872	2,041,703,863	130,908,009	6.4
② 総 費 用	工 医 業 費 用	給 与 費	1,142,208,581	1,123,453,333	18,755,248	1.7
		材 料 費	344,593,751	339,934,056	4,659,695	1.4
		経 費	475,074,116	460,375,124	14,698,992	3.2
		減 価 償 却 費	108,893,189	121,029,050	△ 12,135,861	△ 10.0
		資 産 減 耗 費	160,178	5,331,517	△ 5,171,339	△ 97.0
		研 究 研 修 費	43,340,511	43,408,795	△ 68,284	△ 0.2
		計	2,114,270,326	2,093,531,875	20,738,451	1.0
	才 医 業 外 費 用	支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	11,794,091	59,018,474	△ 47,224,383	△ 80.0
		雑 損 失	35,793,958	31,453,112	4,340,846	13.8
		保 育 所 費	3,321,200	0	3,321,200	皆増
		計	50,909,249	90,471,586	△ 39,562,337	56.3
	力 特 別 損 失	過 年 度 損 益 修 正 損	611,679	460,922	150,757	32.7
		計	611,679	460,922	150,757	32.7
	b 費 用 合 計			2,165,791,254	2,184,464,383	△ 18,673,129
当 年 度 純 利 益 (a-b)			6,820,618	△ 142,760,520	149,581,138	—
総 収 支 比 率 (総 収 益 / 総 費 用)			100.3	93.5	6.8	
医 業 収 支 比 率 (医 業 収 益 / 医 業 費 用)			84.9	89.9	△ 5.0	

① 総 収 益

ア 医業収益

医業収益では、前年度と比較すると 88,266 千円 (4.7%) 下回っている。

これは、外来収益で 28,244 千円 (4.8%) 増加したものの、入院収益で 71,394 千円 (6.4%)、その他医業収益で 913 千円 (2.1%)、他会計負担金で 44,203 千円 (33.1%) 減少したことによるものである。

イ 医業外収益

医業外収益では、前年度と比較すると 4,529 千円 (3.6%) 上回っている。

これは、受取利息配当金で 7 千円 (37.9%)、他会計負担金で 1,191 千円 (1.7%)、減少したものの、他会計負担金で 5,610 千円 (14.2%)、補助金で 77 千円 (2.2%)、その他医業外収益で 40 千円 (0.3%) 増加したことによるものである。

ウ 特別利益

特別利益では、前年度と比較すると 214,645 千円 (612.0%) 上回っている。

これは、固定資産売却益で 4,870 千円 (皆減) 減少したものの、過年度損益修正益で 2,272 千円 (1112.9%)、他会計補助金で 217,243 千円 (724.1%) 増加したことによるものである。

② 総 費 用

エ 医業費用

医業費用では、前年度と比較すると 20,738 千円 (1.0%) 上回っている。

これは、資産減耗費で 5,171 千円 (97.0%)、減価償却費で 12,136 千円 (10.0%)、研究研修費で 68 千円 (0.2%) 減少したものの、経費で 14,699 千円 (3.2%)、給与費で 18,755 千円 (1.7%) 材料費で 4,659 千円 (1.4%)、増加したことによるものである。

オ 医業外費用

医業外費用では、前年度と比較すると 39,562 千円 (43.7%) 下回っている。

これは、雑損失で 4,341 千円 (13.8%)、保育所費で 3,321 千円 (皆増) 増加したものの、支払利息及び企業債取扱諸費で 47,224 千円 (20.0%)、減少したことによるものである。

カ 特別損失

特別損失では、前年度と比較すると 151 千円 (32.7%) 上回っている。

これは、過年度損益修正損の増加によるものである。

財務分析

経営成績の一指標を表わす比率で見る、総収支比率においては 6.8 ポイント上回ったものの、医業収支比率においては、前年度対比 5.0 ポイント下回っている。結果、当年度純利益があるものの経営の厳しいことを示している。

3 予算と決算について（税込み）

(1) 収益的収入及び支出

科 目		区 分	予算現額	決算額	不用額	執行率
① 総 収 益	ア 医 業 収 益	入 院 収 益	1,064,427,000	1,049,312,426	△ 15,114,574	98.6
		外 来 収 益	601,056,000	613,461,436	12,405,436	102.1
		そ の 他 医 業 収 益	40,504,000	44,126,070	3,622,070	108.9
		他 会 計 負 担 金	89,541,000	89,541,000	0	100.0
		計	1,795,528,000	1,796,440,932	912,932	100.1
	イ 医 業 外 収 益	受 取 利 息 配 当 金	14,000	11,945	△ 2,055	85.3
		他 会 計 負 担 金	45,057,000	45,057,000	0	100.0
		他 会 計 補 助 金	66,979,000	66,979,000	0	100.0
		補 助 金	3,621,000	3,621,600	600	100.0
		そ の 他 医 業 外 収 益	13,720,000	13,785,951	65,951	100.5
	計	129,391,000	129,455,496	64,496	100.0	
	ウ 特 別 利 益	過 年 度 損 益 修 正 益	16,000	2,476,982	2,460,982	15,481.1
		他 会 計 補 助 金	247,243,000	247,243,000	0	100.0
		計	247,259,000	249,719,982	2,460,982	101.0
	収 益 合 計			2,172,178,000	2,175,616,410	3,438,410
② 総 費 用	工 医 業 費 用	給 与 費	1,162,984,000	1,142,410,476	20,573,524	98.2
		材 料 費	368,980,000	351,833,193	17,146,807	95.4
		経 費	503,613,000	496,067,970	7,545,030	98.5
		減 価 償 却 費	108,867,000	108,893,189	△ 26,189	100.0
		資 産 減 耗 費	11,000	160,178	△ 149,178	1,456.2
		研 究 研 修 費	44,520,000	43,518,427	1,001,573	97.8
		計	2,188,975,000	2,142,883,433	46,091,567	97.9
	才 医 業 外 費 用	支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	12,293,000	11,794,091	498,909	95.9
		雑 損 失	7,420,000	7,420,000	0	100.0
		消 費 税	2,400,000	2,305,000	95,000	96.0
		保 育 所 費	3,500,000	3,487,260	12,740	99.6
		計	25,613,000	25,006,351	606,649	97.6
	力 特 別 損 失	過 年 度 損 益 修 正 損	612,000	611,679	321	99.9
		計	612,000	611,679	321	99.9
		予 備 費	300,000	0	300,000	—
費 用 合 計			2,215,500,000	2,168,501,463	46,998,537	97.9

① 総収益

ア 医業収益では、予算現額に対する決算額は 100.1%の執行率となっている。
これは、外来収益、その他医業収益で予定を上回ったことによるものである。

イ 医業外収益では 100.0%の執行率となっている。これは、受取利息配当金で予定よりも下回ったものの、補助金、その他医業外収益で予定を上回ったことによるものである。

ウ 特別利益では 101.0%の執行率となっている。
これは、過年度損益修正益が予定を上回ったことによるものである。

この結果、事業収益総体としては 100.2%の執行状況となっている。

② 総費用

エ 医業費用では、予算現額に対する決算額は 97.9%の執行率となっている。
これは、給与費、材料費、経費、研究研修費において不用額を生じたことが主な要因である。

なお、減価償却費、資産減耗費において、予算額を超過して執行しているが、これは、地方公営企業法施行令第 18 条第 5 項ただし書きの規定に基づくものである。

オ 医業外費用では 97.6%の執行率となっている。
これは、支払利息及び企業債取扱諸費、消費税、保育所費において不用額を生じたことが主な要因である。

カ 特別損失では 99.9%の執行率となっている。
これは、過年度損益修正損で不用額を生じたことによるものである。

この結果、事業費用総体としては 97.9%の執行状況となっている。

(2) 資本的収入及び支出

ア 収入の執行状況は、次のとおりである。

(単位：円・%)

科 目	予 算 現 額	決 算 額	増 減 額	執 行 率
企 業 債	33,200,000	33,100,000	△ 100,000	99.7
出 資 金	151,075,000	5,401,796	△ 145,673,204	3.6
投 資 償 還 金	2,000,000	2,000,000	0	100.0
寄 附 金	100,000	100,000	0	100.0
補 助 金	94,000	94,000	0	100.0
負 担 金	0	145,673,204	145,673,204	皆増
合 計	186,469,000	186,369,000	△ 100,000	99.9

企業債では、医療機器等整備事業債 19,900 千円、医師・看護師修学資金貸付事業債 13,200 千円、出資金では、一般会計から企業債元金償還等に要する経費として 5,402 千円、投資償還金では 2,000 千円、寄附金では、100 千円、補助金では、新人看護職員臨床実践能力向上研修支援事業費として 94 千円、負担金では企業債元金償還等に要する経費として 145,673 千円がそれぞれ執行され、収入総体としては 99.9%の執行状況となっている。

イ 支出の執行状況は、次のとおりである。

(単位：円・%)

科 目	予 算 現 額	決 算 額	不 用 額	執 行 率
建 設 改 良 費	20,650,000	20,569,080	80,920	99.6
企 業 債 償 還 金	228,868,000	228,867,624	376	100.0
投 資	19,700,000	18,700,000	1,000,000	94.9
合 計	269,218,000	268,136,704	1,081,296	99.6

建設改良費では、医療機器、備品購入費で超音波画像診断装置ほか 8 品目を 20,569 千円で購入し、99.6%の執行率となっている。

企業債償還金では、当年度償還額が 228,868 千円で 100.0%の執行率であり、投資では、看護師修学資金貸付金が 11,000 千円 (11 人)、医師修学資金貸付金が 7,200 千円 (2 人)、看護師就業支援金貸付が 500 千円 (5 人) となり 94.9%の執行率で、支出総体としては 99.6%の執行状況となっている。

なお、資本的収支の不足額 81,768 千円は、当年度分消費税資本的収支調整額 28 千円で補てんし、なお不足する額 81,740 千円については一時借入金で措置し、収支の均衡を図っている。

4 財政状況について（税抜き）

当年度末における財政状況は、次のとおりである。

（単位：円）

借	方	区 分	貸	方
1,862,363,063	ア 固定資産	勘 定 科 目	エ 流動負債	254,125,068
1,818,740,376	有形固定資産		一時借入金	160,000,000
1,582,687	無形固定資産		未払金	87,458,891
42,040,000	投資		預り金	6,666,177
303,002,357	イ 流動資産		オ 資本金	2,266,195,644
15,139,113	現金預金		自己資本金	1,200,559,885
286,976,478	未収金		借入資本金	1,065,635,759
538,725	貯蔵品		カ 剰余金	△ 354,955,292
348,041	前払費用		資本剰余金	2,891,483,696
0	ウ 繰延勘定		欠損金	3,246,438,988
2,165,365,420	資産合計	合計	負債資本合計	2,165,365,420

当年度末の資産合計及び負債資本合計は 2,165,365 千円で、前年度と比較すると 105,360 千円（4.6%）減少している。これらの内容は次のとおりである。

(1) 資産勘定

（単位：円・%）

科 目	平成 25 年度	平成 24 年度	増 減 額	増 減 率
固 定 資 産	1,862,363,063	1,939,134,703	△ 76,771,640	△ 4.0
流 動 資 産	303,002,357	331,591,386	△ 28,589,029	△ 8.6
繰 延 勘 定	0	0	0	—
合 計	2,165,365,420	2,270,726,089	△ 105,360,669	△ 4.6

ア 固定資産

固定資産では、前年度と比較すると 76,772 千円（4.0%）下回っている。

これは、除却及び当年度減価償却費等 86,052 千円（4.5%）の減少分と投資における長期貸付金の貸付金から償還免除、償還金 9,280 千円（28.3%）の増加を足したものである。

イ 流動資産

流動資産では、前年度と比較すると 28,589 千円（8.6%）下回っている。

これは、未収金 29,521 千円（9.3%）、前払費用 57 千円（14.1%）の減少分と、現金預金 874 千円（6.1%）、貯蔵品 115 千円（27.1%）の増加分とを差し引きしたものである。

未収金の内訳は次表のとおりであり、現年度分の未収金には、納入期限未到来の平成26年2月分及び3月分の未収金（医業収益の保険分に限る。）が含まれているため、この未収金の大半は、平成26年度において納入される予定である。

今後においては更なる負担の公平性の面からも、未収金解消の積極的な取り組み・適切な処理が必要と考える。

未収金は放置しておくとは不良債権化していくおそれがあるので、早期回収に一層の努力を期待するものである。

未 収 金 年 度 別 状 況 表（税込み）

（単位：円）

過 年 度 分				現 年 度 分			
年度区分	金額	年度区分	金額	区分	金額		
平成元年度	27,350	平成14年度	2,030,427	医業収益	256,399,490		
平成3年度	0	平成15年度	3,824,683	医業外収益	1,077,691		
平成5年度	182,398	平成16年度	2,892,539	その他未収金	94,000		
平成6年度	106,480	平成17年度	2,009,147	/			
平成7年度	314,962	平成18年度	1,033,994				
平成8年度	554,957	平成19年度	390,836				
平成9年度	1,209,725	平成20年度	243,765				
平成10年度	3,015,136	平成21年度	174,492				
平成11年度	2,725,222	平成22年度	121,905				
平成12年度	4,131,504	平成23年度	181,802				
平成13年度	3,921,191	平成24年度	312,782				
小 計		29,405,297				小 計	257,571,181
合 計						286,976,478	

次に、不納欠損状況の明細及び前年度との比較は、次表に示すとおりである。

不 納 欠 損 状 況 の 明 細 及 び 前 年 度 比 較

（単位：人・円・％）

区 分	平 成 2 5 年 度								平成24年度		比 較 増 減	
	平成23年度以前		平成24年度分		現年度分		合 計		人 数	金 額	増 減 額	増 減 率
	人 数	金 額	人 数	金 額	人 数	金 額	人 数	金 額				
病院使用料	1	159,619	1	19,260			2	178,879	0	0	178,879	100.0

※人数は実人数である。

(2) 負債勘定

(単位：円・%)

科 目	平成25年度	平成24年度	増 減 額	増 減 率
流 動 負 債	254,125,068	321,807,731	△ 67,682,663	△ 21.0

エ 流動負債

流動負債では、前年度と比較すると67,683千円(21.0%)下回っている。

これは、未払金が2,773千円(3.3%)増加したものの、一時借入金で70,000千円(30.4%)、預り金で456千円(6.4%)減少したものである。

一 時 借 入 金 借 入 状 況

(単位：円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
一 時 借 入 金	170,000,000	230,000,000	160,000,000
利 息	380,107	419,861	366,081

(3) 資本勘定

(単位：円・%)

科 目	平成25年度	平成24年度	増 減 額	増 減 率
資 本 金	2,266,195,644	4,814,885,606	△ 2,548,689,962	△ 52.9
剰 余 金	△ 354,955,292	△ 2,865,967,248	2,511,011,956	△ 87.6
合 計	1,911,240,352	1,948,918,358	△ 37,678,006	△ 1.9

オ 資本金

資本金では、前年度と比較すると2,548,690千円(52.9%)減少している。

これは、自己資本金から資本剰余金への振替等で2,352,922千円(66.2%)、借入資本金の企業債で195,768千円(15.5%)減少したものである。

カ 剰余金

剰余金では、前年度と比較すると2,511,012千円(87.6%)増加している。

これは、上記自己資本金から資本剰余金への振替分等で2,504,091千円(4.6%)及び寄附金で100千円(0.2%)、当年度純利益で6,821千円(104.8%)増加したものである。

5 総括について

平成25年度市立芦別病院事業会計決算について、各項目にわたって審査の概要及び意見を記述したが、本年度も経費削減、医療機器等の充実を図るなど効率的な病院運営に努力したものの、年間取扱患者数では、前年度と比較すると入院で2,336人(6.1%)、外来では2,521人(3.3%)と共に減少となった。

経営成績では、前年度を費用では下回ったものの、収益で上回った。

収益においては、医業収益の外来収益で28,244千円(4.8%)増加となったものの、入院収益、その他医業収益、他会計負担金で減少となり、差し引きで88,266千円(4.7%)減少となった。

また、医業外収益の受取利息配当金で7千円(37.9%)、他会計補助金で1,191千円(1.7%)減少となったものの、他会計負担金、補助金、その他医業外収益で増加となり、差し引きで4,529千円(3.6%)増加となった。

さらに、特別利益の固定資産売却益で4,870千円(皆減)減少となったが、過年度損益修正益で2,273千円(1112.9%)、他会計補助金で217,243千円(724.1%)増加となり、差し引きで214,645千円(612%)の増加となった。

収益総体では、前年度と比較すると130,908千円(6.4%)の増加となった。

一方、費用においては、医業費用の減価償却費及び資産減耗費で17,307千円(13.7%)、研究研修費で68千円(0.2%)減少したものの、給与費、材料費、経費で増加となり、差し引きで20,738千円(1.0%)の増加となった。

また、医業外費用では、雑損失で4,341千円(13.8%)、保育所費で3,321千円(皆増)増加したものの支払利息及び企業債取扱諸費で減少となり、差し引きで39,562千円(43.7%)の減少となった。

さらに、特別損失の過年度損益修正損で151千円(32.7%)の増加となった。

費用総体では、前年度と比較すると18,673千円(0.9%)の減少となった。

その結果、単年度収支としては当年度純利益6,821千円を計上することとなり、これを、前年度繰越欠損金3,253,260千円から差し引いた3,246,439千円を当年度未処理欠損金として翌年度に繰越しすることとなった。

総収支比率においては、前年度に比べて6.8ポイント上回って100.3%と健全性を示す100%を超えたが、医業収支比率では前年度に比べて5.0ポイント下回って84.9%となり、一般会計からの基準外繰出金の増加推移を見ても経営支援に依存した厳しい経営状況であると判断される。

今後の運営に当たっては、本年3月に策定された市立芦別病院第2次中期経営計画による病院経営の健全化、効率化等を基本とし、本市の医療需要に適した事業運営がなされるよう期待する。